

6 音 楽 科

真 田 美智子・登 浩 二

1 豊かな感性を育む音楽科学習

音楽は、人間が感じ取ったときに初めて存在するものであり、聴いて感じた以上の音楽表現はあり得ないといわれる。音楽科学習においては、子ども自身の中で感じる事が学習の出発点である。つまり、自ら感じ、気づき、考え、表現することなしには、その人にとっての音楽とはいえないであろう。いいかえれば、豊かな感性を育む音楽科の学習は、楽しさを感じながら、自分なりの音楽を創り出す（感じ、気づき、考え、表現する）ことであると考えられる。このような姿を育むための支援のあり方を探っていききたい。

楽しさを感じながら、



- ・活動が児童の実態に合っている。
- ・適度な抵抗感がある。
- ・成功感や身についた実感がある。
- ・音楽が心地よい。
- ・集団の中で認められる。

音楽を創り出す（感じ、気づき、考え、表現する）

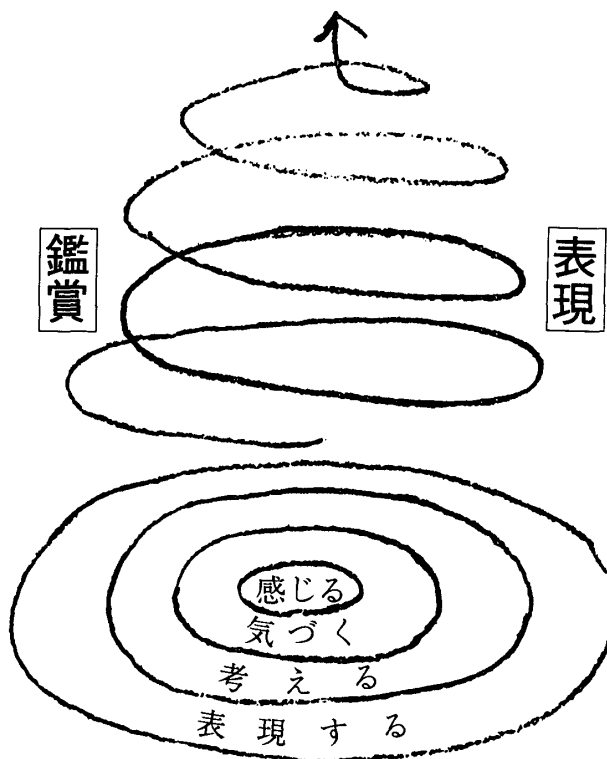


- ・模倣する場がある。
- ・多様な音楽経験を積み重ねる。
- ・音で遊ぶ。音楽で遊ぶ。
- ・イメージを広げたり、工夫したりする場がある。
- ・一人で、二人で、みんなで、グループで活動する場がある。

2 豊かな感性を育む支援

表現の中には、おのずから感じたことや気づいたことが含まれており、表現しながらよさを感じたり、物足りなさを味わったりすることがある。また、表現してみて初めて自分の課題が明らかになったり次のめあてが生まれたりすることもある。このように、「感じる」「気づく」「考える」「表現する」ことは、それぞれ切り離すことのできないものであり、互いに関連し合って質的に変わっていくものであると考えられる。そこで、ここでは、「感じる」「気づく」「考える」「表現する」姿をそれぞれ具体的にとらえ、支援のあり方を明らかにしたい。

豊かな感性を育む



	様 相	支援の手だて
感 じ る	<ul style="list-style-type: none"> • 楽しさ, 美しさ, 心地よさ • 解放感 • 好き, 嫌い • 心に浮かぶ, 想像する, 漠然としたイメージをもつ • みんなといっしょにする楽しさ • 達成感, 成就感 	<ul style="list-style-type: none"> ○よさが感じ取れる音楽との出会わせ方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> • 範唱や範奏, CD, 視覚的な資料 ○音楽を聞いて動いたり, 模倣したり, 感じたことを出し合う場を設定する。
気 づ く	<ul style="list-style-type: none"> • 音楽の構成要素との関わり (リズム, メロディ, 重なり, 音色, 強弱, 速さ, 沈黙…) • 音楽の背景 (歌詞, 歴史, 生活, 情景, 作曲者, 感情, 気持ち…) • 具体的なイメージをもつ。 • 注意して聴く, 意識的に聴く。 • 互いや自分の高まりやがんばり 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞や旋律などを手がかりにイメージを広げていく働きかけをする。 <ul style="list-style-type: none"> • 発問, 資料の提示, 共感的なことばかけ ○リズムやメロディ…などポイントをしぼった表現や鑑賞の場を工夫する。
考 え る	<ul style="list-style-type: none"> • イメージに合った表現を考える。 • 選ぶ。 • 探す。 • 工夫する。 • イメージに照らして表現を振り返りよりよい表現を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたことや気づいたことをもとに表現し, イメージに照らしてよりよい表現になる方法を考えたり, 試したりする場を設定する。 ○選ぶ, 探す, 工夫する活動を取り入れる。 ○感覚的, 技能的, 知的なめあてがもてるような工夫をする。 <ul style="list-style-type: none"> • 鑑賞, 録音, ことばかけ
表 現 す る	<ul style="list-style-type: none"> • 模倣して表現する。 • イメージを持ちながら表現する。 • 自分なりに工夫して表現する。 • 互いに工夫しながら表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して表現できる場づくりをする。 ○工夫する観点を明確にする。 ○表現方法や表現技能を積み重ねていく

本年度は, 重点項目として次の点を考えている。

- ① 子どもが, 意志決定のできる場(選ぶ, 工夫する等)を設定する。
- ② 感じたことや気づいたことを大切にしながら, イメージを広げたり, 具体的なめあてをもつための手だてを工夫する。
- ③ 子どもの表現の中にあられる「感じ方」「気づき」「考え」「表現」をとらえていく。子どもの姿を固定的にとらえるのではなく, 表情, 動き, つぶやき, 発言, ノート, 表現などから, 変わっていくものととらえていきたい。